

自立型姿勢

岩手・釜石に赴任して間もなく1年が経過します。今冬は、それほど降雪しないと事前に聞いていた釜石においても複数回の降雪があり、市民の皆様が黙々と除雪される姿を何度も見かけました。一般的に言われる「辛抱強くどんな苦境にも耐え忍ぶ」県民性が育まれた背景を、東北で越す初めての冬に感じ入っているとありま

す。そうした県民性と相通ずる面もあるかと思えますが、私が会社人生の中で大切にしてきた姿勢であり、現在は事業運営の基本方針に据えている「自立型姿勢」について僭越ながらご紹介したいと思います。

自立型姿勢は、人間の本質である弱さに立ち向かう姿勢を指しています。いかなる環境・条件の中においても、自らの能力と可能性を信じて、自ら道を切り拓いていく姿勢のことです。言葉で言えば簡単ですが、この姿勢を常に保つことは人間にとって非常に難しいものです。人間は安楽に流される「依存型姿勢」が主流を占める非常に弱い動物であり、努力して身に付けた知識や経験も、道を切り拓くために用いるのではなく、出来ない理由を作るために使っ

まう非常に厄介な生き物です。

また、何かを成し遂げようとする場合、必ず幾多の困難に遭遇します。周囲からこれは出来ない、やったことがない、できるわけがない、などの反対意見が出るのが世の常です。そのネガティブな勢力に気持ちで負けて、意欲も下がり、**“こなし”**の仕事となり、結局は本質的に何も進まないことが多々あります。しかし、捉え方によっては、その反対意見は徹底的に克服すれば必ず成功へとつながる重要なヒントであり鍵とも言えます。要は物事をネガティブからポジティブに捉えることが、自立型姿勢を保つ上で非常に重要なこととなります。

『自立型姿勢』は大きく次の6つの要素で構成されています。

- ① 自己依存／他人に決して期待せず、自分自身のみを期待する。↓「他人と過去は変えられない、変えられるのは自分と未来」
- ② 自己管理／常にモチベーションを高め、維持する・そして確かめる。↓「人間はすぐに忘れる癖がある。1日3回、自分の夢を常に確かめる」
- ③ 自己責任／問題の原因は自分にあると

考え、決して言い訳をしない。↓「他人の責任にしたものは決して解決はしない」

④ 自己評価／決して諦めることなく、自分が納得いくまでとことんやる。↓「逃げているのを一番知っているのは自分自身」

⑤ 他者支援／他人を信頼し支援する。そうすれば必ず自分を支援する仲間が増える。↓「相手が自分に何をしてくれただけではなく、自分が相手に何を支援したかが重要」

⑥ プラス受信／起きたことを常にポジティブに考え、自分自身のプラスに受け止める。↓「全ての出来事は前向きに考えればチャンスとなり、後ろ向きに考えればピンチとなる」

言うは易しですが、実行するのは本当に難しい難行であり、私自身もまだまだ実践できていないと自覚しているため、社員と共に常に努力していきたいと思っております。そのため、「せねばならない」という義務感によるやる気ではなく、「何かを達成したい」という希望のやる気が製鐵所構内に充満するよう、先頭に立って取り組んでいく所存です。



新日鐵住金株式会社
参与
釜石製鐵所長

米田 寛